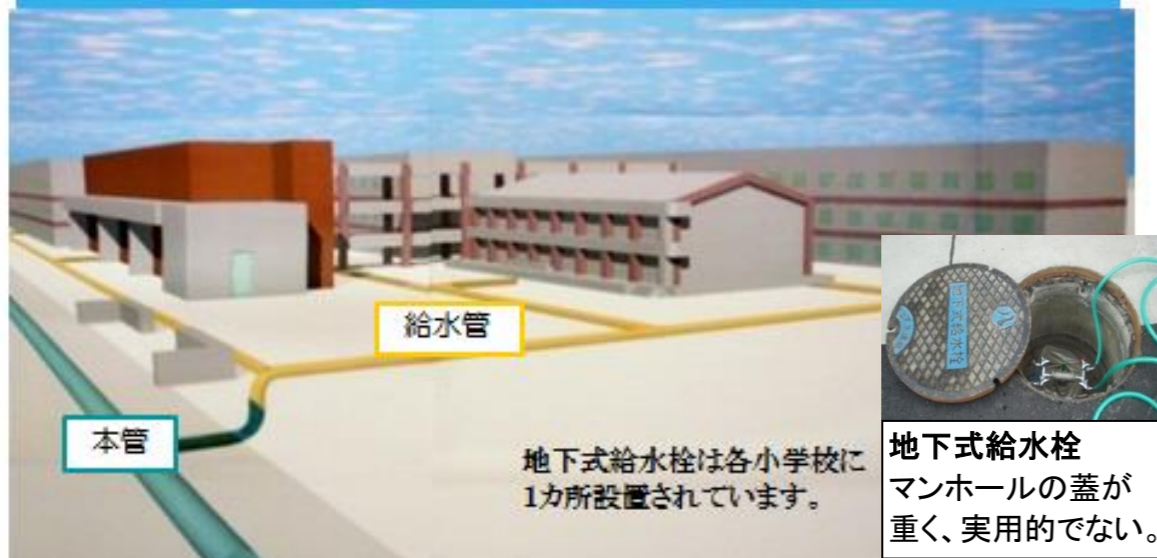


給水管を耐震化に・・・

議会質問



地下式給水栓は各小学校に1カ所設置されています。

地下式給水栓マンホールの蓋が重く、実用的でない。

▼全ての学校にある運動場の蛇口を利用すれば、重いマンホールの地下式給水栓を利用せずに済みます。【指摘】



▼1校あたりの平均水道蛇口個数(H21年度時点)
小学校・・・179個、中学校・・・236個 設置されています。



▼学校のトイレ (H29年度時点で1校あたり平均個数)
・小学校の便器・・・小便器43個、大便器66個(和39個・洋27個)設置
・中学校の便器・・・小便器48個、大便器77個(和51個、洋26個)設置
▼災害用トイレ 平均的な小中学校の備蓄数
・簡易パック式トイレ・・・6,000回分 ・簡易洋式便座・・・18個
▼災害時、避難所においてライフラインの中で直ちに必要なのは、飲み水以上にトイレです。飲み水は家庭から水筒で持ち運びできますが、トイレが使用できないと学校へ登校できなくなる為、トイレが利用できるよう考えるべきだと議会質問で訴えた後、**本年32校が耐震工事**することになりました。また残りの小中学校についても、災害直後、早期復旧工事が行えるよう、学校ごとに担当設備会社を決めました。

災害時の止水栓について



▼この図面は、道路から家庭内までの水道管を表しています。
▼災害時には、家庭内の水道管から漏水が起こる場合があります。そうすると家庭の蛇口から水が出なくなることがあります。
▼また、多くの家庭で漏水が起こりますと、道路下の配水管の水圧も下がり消火活動に支障が出ます。
▼そのため、**家庭内の水道管で漏水があるときは、水道メータの近くに止水栓を閉めていただくと漏水を止めることができます。**
▼家庭内の漏水を止めることで、道路下の配水管への影響が小さくなり、応急給水施設等まで水を届けることができます。

災害対策本部の体制強化について

本市の災害訓練の様子



東京臨海広域防災公園にある国のオペレーションルーム



▼右写真の東京のオペレーションルームに比べ、本市はなんと手狭なことでしょうか。机と机の間が狭く人の移動すら難しく、情報の交換など災害対応業務に支障を生じると思います。H29年度11月定例会で「**今後の災害対策本部の体制強化について一刻も早く実施しなければならない**」と訴え、災害時の司令塔となる**名古屋市災害対策本部が30年ぶりに充実強化**されることが決定しました。

備蓄品について

はんぶん米

▼お湯か水で戻すだけの調理で食物アレルギー、腎疾患の方も安心して食べられるごはんです。
▼H24年度より**1000食分**備蓄
H28年度には**5000食分**まで増やしました。



「春陽」は体に吸収されやすいタンパク質「グルテリン」の含量を他のお米に比べて約1/2～1/3に抑えたお米です。

第4回2018年
ジャパン・レジリエンス・アワード
「優良賞」



3年連続の受賞(3連覇)
金谷事務局長㊟